



近く稼働する加山興業豊川工場の「RPF製造プラント」



完工式で謝辞を述べる加山昌弘社長

豊川市南千両2丁目

RPF製造プラント完成

廃棄物から
燃料づくり

2酸化炭素削減に貢献

加山興業が
豊川で式典

産業廃棄物中間処理業の加山興業(名古屋市中加山昌弘社長)は26日、豊川市南千両2丁目の豊川工場で、廃棄物を原料とした固形燃料をつくる「RPF製造プラント」の完工式を開いた。東名高速

沿いの隣地3300平方メートルを取得し、昨秋着工した工場棟で、鉄骨造り平屋1320平方メートル。毎時6トンの生産能力があり、今年3月末までに稼働させ、王子製紙へ全量供給していく。

RPFは化石燃料に代わる循環型環境保全エネルギーで、古紙や廃プラスチックなどを選別・破碎後、成形加工して精製する。燃焼炉用の燃料として貯蔵性に優れ、排ガス対策が容易な上、高力

ロリーで安価といった特長がある。加山興業では、京都議定書に基づき世界的な化石燃料削減をにらみ、温暖化防止に貢献するニュービジネスとしてRPF進出を決めた。事業費約5億5000万

この日の完工式には、主要取引先ら約200人が出席。加山社長は、構想期間10年を経て、王子製紙の力強い支援で完成にこぎ着けた。高度なりサイクル事業ではないが、身近な化石燃料の代替という分野で、2酸化炭素削減に貢献していきたいと述べた。

同社は1951年に「加山組」として設立、株式会社化(61年)を機に現在名となり、現業部門は豊川工場に集約。蛍光管の破碎、注射針など医療廃棄物処分なども手掛け、昨年は環境国際基準認証ISO14001も取得した。直近の売上高(昨年8月期)は8億8600万円、経常利益910万円。RPF製造プラント稼働により、今期売上高を10億8000万円、経常利益1000万円と見込む。将来的には、「バイオマス発電」による買電事業にも進出する計画だ。(藤田彰彦)